

31 ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

事業名:ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業**実施主体:国立国際医療研究センター****対象国:ベトナム****対象医療技術等:**以下の①から⑤にあてはまるものを具体的に記載して下さい(複数可)①医療技術・医療機器・医薬品 ②医療施設におけるマネジメント・人材開発 ③医療制度 ④注目を集めつつある国際課題
⑤その他()

①医療機関における現場の医療従事者全般を対象に医療サービスの提供の医療技術・医療機器・医薬品の運用・使用時の質・安全を高める取り組みを現場で実施する意識を高めるための教育提供

②医療の質・安全を各医療機関・各部署で医療従事者が実施することを後押しする仕組みが立案できる管理者の育成

事業の背景

ベトナム保健省の政策文書等の意向に沿う形で国立中央病院、地域の中核病院の品質管理部の医師・看護師に対して展開推進事業「ベトナム国医療の質・安全にかかるマネジメント能力強化事業」などで医療機関の品質管理部の能力を強化を行ってきており、各医療機関で医療の質・安全のための組織の体制整備はすすんでいる。しかしながら実際の診療現場において、高い医療の質・安全を担保して、実際の診療現場、診療現場に実施するためには医療機関の一部への概念、理論の普及だけでは、表面的なものに収まり、実際に患者にとって有益であり、実行力のある活動の面で課題があることが明らかになっている。現場の医師、看護師のおかれている現状にあわせて、彼らが自発的にボトムアップで現場の医療の質・安全の活動につなげられるように臨床的な視点も加味したうえでのアプローチが求められており、保健省および複数の国公立医療機関より事業の依頼がある。

事業の目的

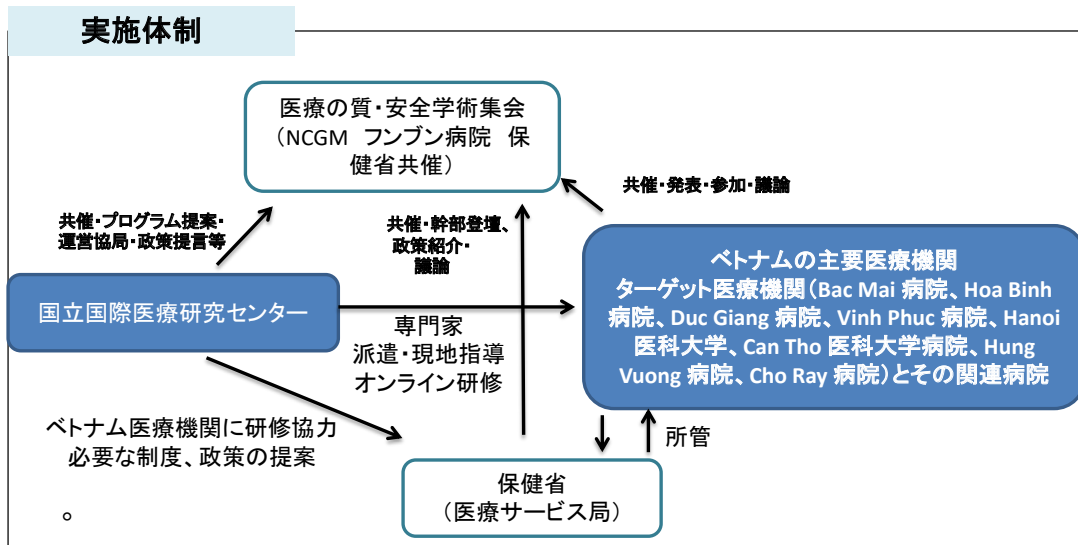
ベトナム国における対象病院(過去事業の関係病院)にオンライン遠隔指導や研修等により日本の医療安全の推進の経験を共有し、ベトナムでの現場を改善する議論を躍起し、さらには現場レベルでの実施を意識した、個々の状況に応じた改善のプロセスを支援することで医療安全を推進するための改善のモデルを見出し、かつ、対象病院からの具体的な知見・教訓をベトナム医療の質・安全学術集を開催し、ベトナム全土の医療機関、保健省に共有し、ベトナムの医療安全対策推進に貢献する。

1

ベトナムでは経済成長に伴い、比較的高度な医療提供も始まっている。しかしながら、透析の管理の不備で8名死亡した事例をはじめ、大きな医療事故の報道は相次いでいます。そのため、保健省は医療の質向上、患者安全に関する政策文書を出すなどし、医療機関は質管理部の整備など体制の構築をおこなってきました。しかしながら、政策文書や組織体制の構築は比較的すすんでいるものの、実際の医療サービス提供の現場では必ずしも質・安全の高いサービスが患者に提供されているとは言えない実態が確認できています。つまり、医療の質・安全の取り組みは概念・形式的なものにとどまっていると考えられます。本事業は、ベトナムの中心的な医療機関において、医療の質・安全を向上させる管理体制の強化に加えて、診療現場のサービスの質・安全をボトムアップで実施を推進することを旨とした教育プログラムを提供する事業です。具体的な事業の背景及び、事業の目的は記載のとおりです。

31 ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)



研修目標

従来の医療機関内の質管理部だけではなく、各診療科も含めた医療サービスの質・安全向上につながる、ベトナムの現場の医療従事者の性質を意識した研修コンテンツを作成し、医療機関の幅広い層に対して研修を実施する。
ベトナム医療の質・安全学術集会を、ベトナム全土から参加者をつつめ、ベトナムの医療現場でのサービスの質・安全の推進に寄与するプレゼンテーション、議論が行われるコンテンツとする。

2

本年度のバクマイ病院、チョーライ病院など中核病院、大学病院、フンブン病院など質・安全に関して先鋭的な取り組みを行っている医療機関をターゲット病院として選定しました。それらの医療機関は北部、南部の中心的な医療機関であり、下位病院、地方病院の教育的な役割があり、より広い範囲でのインパクトが強いと考えられます。事業で実施した医療の質・安全の研修は研修は、それらの医療機関と連携し、ターゲット医療機関とその関連病院の幅広い職員に対してオンラインの強みを生かし大規模に実施しました。また、現地に渡航しての活動は、専門家が医療機関の現場の実態を把握したうえで、現場に受け入れやすい活動をともに考え、そのうえで必要な要素を抽出した、講義、対話、ディスカッションを医療機関の現場で実施しています。また、2023年2月にベトナム保健省、フンブン病院と共催で、医療の質・安全学術集会を実施しました。それぞれの内容に関しては以下のスライド参照ください。

31 ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

1年間の事業内容

令和4年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研修内容										
ターゲット医療機関 (Bac Mai 病院、Hoa Binh 病院、Duc Giang 病院、Vinh Phuc 病院、Hanoi 医科大学、Can Tho 大学病院、Huong Vuong 病院、Cho Ray 病院)と本年度計画ブレインストーミング会議	各医療機関ごとにオンラインディスカッション 8回実施(各医療機関10~20名参加)									
インシデントレポートの 推進をメインテーマとし た、ターゲット病院とそ の関連病院をターゲット とした遠隔研修実施。					オンライン研修実施 7回 ターゲット医療機関とその関連 病院の医療従事者を対象に実施 合計5452名修了					
現地渡航での現場にお お指導、経験者、デ スカッション								Vinh Phuc 病院、Bach Mai 病院、Duc Gang病 院、Huong Vuong の現 場にて現場指導実施		Vinh Phuc 病 院にて実施 現場指導
医療の質・安全学術集 会の開催								現地指導計375名		学術集会 開催 915名参加

3

1年の事業内容は表のとおり。年度前半でターゲット医療機関と本年度の各医療機関の活動計画を考えるブレインストーミングを実施しました。各医療機関が我々とともに活動計画を作成しています。この計画をもとに、主に「インシデントレポートシステム」に関して、その実施の難しさを議論するオンライン研修を実施しました。オンライン研修は従来の講義形式だけではなく、ベトナムの事情を加味した本音での議論を引き出すコンテンツとしました(後述)。本研修の内容に関して、ベトナム人の性質、医療現場の実情をよくわかっている研修の方法であるとベトナム関係者から高評価を得て、いくつかの医療機関では追加の要請のもと、複数回の研修を行い、最終的に合計5452人が参加しています。また、現地に渡航しての、現地指導も12月と2月に実施しました。渡航の活動では、現地に渡航する意義として、より医療サービス提供の現場にて、ベトナム医療者と日本人専門家が議論・意見交換し、ボトムアップにつなげる方式を採用しています。このアプローチ方法もベトナムの関係者から、現場の実情を理解した今後の取り組みにつながる内容であったと評価を得ています。また、医療の質・安全推進に関する知見共有の場として医療の質・安全学術集会を開催しました。この会は、GOOD PROCTICEの共有のみでなく、1)医療の質・安全向上のための重要テーマを抽出したうえでの演題発表 2)現場の実際の実施、現場のボトムアップにつながるような分析も加えての発表、などを盛り込んだ内容としました。保健省、フンブン病院と共催しています。ハイブリッド形式で行い、ベトナム全土より915名の参加がありました。

31 ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)



(右)事業担当者の学術集会での発言
(左)保健省副局長(中央)フンプン病院副院長



学術集会は会場とオンラインのハイブリッドで開催。現地には全国より約350名の参加あり、計915名参加。



事業担当のNCGM看護師よりチョーライ病院での診療における安全な医療を行うために、患者の特質を理解する重要性の講義・議論



事業担当者による地方病院での現地指導

4

向かって左上の写真は学術集会にて事業担当者が重要テーマに関して提言を行っている場面です。右上は学術集会の会場の様子です。会場は満席でした。左下は事業担当の NCGM 看護師よりチョーライ病院での「診療における安全な医療を行うために、患者の特質を理解し指導するポイント」の講義・議論の様子です。右下は Vinh Phuc 病院での事業担当者の、医療サービス提供現場での質・安全向上に関する講義、医療従事者との意見交換、提言の様子です。日本人専門家は自身のインシデントの事例を、具体例としてその背景や原因分析し紹介するなど、より現場の医療者へとどくコンテンツに工夫。ベトナム関係者からは非常に興味深い内容であったと評価を得ています。

31 ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)



本年度合計5452名に対して行ったオンライン研修。主に「インシデントレポートシステム」に関して、その実施の難しさを議論するオンライン研修を実施。参加者が多い回では800名以上の参加者が修了

インターラクティブなオンライン研修の工夫

- 従来型の概念、考え方を伝える講義に加えてベトナムの医療現場を想定した事例をストーリーをフランクなファシリテートのもと参加者の発言を引き出す方式で展開。医療の質・安全というテーマの性質上、通常の講義をベースとした研修では、現場の実態とはかけ離れた「模範的」「定型的」な議論になる傾向が多くなり、必ずしも現場のボトムアップにつながらないため、自身たちの現場での実態を反映させた議論を誘導する工夫のもとオンライン研修実施。ベトナム関係者からベトナム人の性質をよく理解した内容であったとの評価を得る。
- 逐次通訳による講義は聞き手にとって、中身が理解しにくく、時間も倍かかるため日本人からの講義はすべて事前の吹き替えを収録したもので実施。

CHƯƠNG TRÌNH HỘI NGHỊ	
THỜI GIAN	NỘI DUNG
Phần 3: Ứng dụng CNTT trong hoạt động quản lý chất lượng và an toàn người bệnh Chủ đề: 1. TS. Đặng Hải Vương, Giám đốc điều hành bệnh viện 2. TS.BS Nguyễn Anh Dũng, Phó giám đốc Sở Y tế TP.HCM 3. BSCKI Huỳnh Xuân Nghiêm, Phó giám đốc Bệnh viện Hùng Vương	
13:30 - 13:50	Ứng dụng để xem khám bệnh và quản lý thông tin bệnh nhân tại Bệnh viện Hùng Vương, TP.HCM ThS. Trần Ngọc Trang, Phó trưởng phòng Quản lý chất lượng, Bệnh viện Hùng Vương
13:50-14:10	Ứng dụng số trong quản lý chất lượng an toàn người bệnh tại Bệnh viện Nhi đồng 1, TP.HCM. ThS. Hồ Văn Năm, Trưởng phòng Quản lý chất lượng, Bệnh viện Nhi đồng 1
14:10-14:30	Ứng dụng CNTT Quản lý và ra trong sử dụng thuốc tại Bệnh viện Hùng Vương ThS. Hồ Xuân Thị Ngọc Hân, Phó trưởng Khoa Dược, Bệnh viện Hùng Vương
14:30 - 15:00	Thảo luận
15:00 - 15:15	Giải lao, tea break
Phần 4: Từ khái niệm đến thực tiễn: Làm thế nào để nâng cao nhận thức của cán bộ quản lý và nhân viên bệnh viện? Chủ đề: 1. Lãnh đạo các quản lý khám chữa bệnh 2. BSCKI Nguyễn Thị Ngọc Bình, Trưởng phòng Nghiên cứu & Đào tạo Y học TP.HCM 3. Giám đốc Sở Y tế và giám đốc các bệnh viện (NCGM)	
15:15 - 15:35	Kinh nghiệm triển khai Bộ bảng kiểm an toàn người bệnh tại các khoa lâm sàng Bệnh viện Chợ Rẫy, TP.HCM ChS. Lê Hồng Vương, Phó trưởng phòng Quản lý chất lượng, Bệnh viện Chợ Rẫy
15:35 - 15:55	Hành trình thiết lập văn hóa không báo cáo tại Bệnh viện Hùng Vương TS.BS. Phan Thị Hồng, Phó giám đốc, Bệnh viện Hùng Vương
15:55 - 16:15	Ứng dụng KPI trong bệnh viện, thuận lợi và khó khăn PGS.TS.BS Hoàng Thị Diễm Tuyết, Giám đốc Bệnh viện Hùng Vương
16:15 - 16:45	Thảo luận
16:45 - 17:00	Bế mạc Hội nghị, tặng quà cho Chủ tọa và Báo cáo viên

学術集会のプログラム

我々の提案をベースに保健省、共催病院と協議の上作成
現在のベトナムの医療現場で質・安全を推進する力となりうるテーマを抽出し、ベトナムの代表医療機関が発表・議論
* 公立病院の独立採算政策の上での公平で質の高い医療提供のために必要な事項
* 質・安全推進のための効果的な投資
* 質・安全で公平な医療提供のための官民連携の推進
* 質・安全推進のための適切なIT化の促進・具体的ツールの紹介
* 懲罰文化を改善するには？
* 医療現場でのKPIの導入
* インシデントレポートシステムの推進のために必要な事項

5

向かって左側の写真はオンライン研修の様態です。主に「インシデントレポートシステム」に関して、その実施の難しさを議論するオンライン研修を実施しました。

本事業においてはインターラクティブなオンライン研修の実施のため、以下のような工夫を行いました。

- 従来型の概念、考え方を伝える講義ではなく、ベトナムの医療現場を想定した事例をフランクなファシリテートのもと参加者の発言を引き出す方式で展開。医療の質・安全というテーマの性質上、通常の講義をベースとした研修では、現場の実態とはかけ離れた「模範的」「定型的」な議論になる傾向が多くなり、必ずしも現場のボトムアップにつながらないため、自身たちの現場での実態を反映させた議論を誘導する工夫のもとオンライン研修実施。ベトナム関係者からベトナム人の性質をよく理解した内容であったとの評価を得る。
- 逐次通訳による講義は聞き手にとって、中身が理解しにくく、時間も倍かかるため日本人からの講義はすべて事前の吹き替えを収録したもので実施。

向かって右側は医療の質・安全の学術集会のプログラムです。学術集会のプログラムはベトナムの医療サービス提供現場で質・安全の高いサービス提供を可能とするために必要な要素を抽出、我々の提案をベースに保健省、共催病院と協議の上作成しました。そのテーマをもとに、ターゲット病院を含めたベトナム国内の代表的な医療機関がその活動内容と、実現のために必要な要素を分析しレゼンテーションしました。学術集会では保健省を含め、さかんな議論がかわされました。学術集会の主要なテーマは以下です。

- 公立病院の独立採算政策の上での公平で質の高い医療提供のために必要な事項
- 質・安全推進のための効果的な投資
- 質・安全で公平な医療提供のための官民連携の推進
- 質・安全推進のための適切なIT化の促進・具体的ツールの紹介
- 懲罰文化を改善するには？
- 医療現場へのKPIの導入
- インシデントレポートシステムの推進のために必要な事項

31 ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	<p>①対象病院への技術指導およびモニタリング 対象病院が自院の現状を評価し、問題を分析して、SMART(具体的、測定可能、達成可能、目標に関連した、時間内)の観点からアクションプランを作成する。 各対象病院よりそれぞれ合計30名以上の対象者が研修を受講する</p> <p>2)医療の質・安全学術集会の開催支援 ・医療の質・安全学術集会の年1回の開催とその抄録作成 学術集会参加者が100名を超える ・運営事務局の設立との準備会議2回開催</p> <p>3)オンライン研修システムやSNS等のプラットフォームを活用した情報共有システムの活性化 ・対象病院が活動内容を記載した記事が関連FACEBOOK等SNSで複数載り</p>	<p>①対象病院が医療安全活動の成果を学術集会で発表する。 各医療機関で活動進捗を測る測定指標、方法が開発される</p> <p>②学術集会に参加する関係者が、各臨床科、企業関係など多様となり、かつ参加数が増加する(参加者名簿により確認) ・運営事務局の役割・組織体制が明確化され文書化される</p> <p>③関連SNSが医療安全の情報交換プラットフォームとして活用され、閲覧者が100を超える。 ・投稿された記事が他のFacebookやSNS等のコミュニケーションツールにて拡散される。</p>	<p>①本事業の取り組みが、保健省やメディア等を通じてベトナムの医療安全を推進する関係者に共有される。</p> <p>②医療の質・安全学術集会が、設立された運営組織のもと、継続的に定期開催される。</p>
実施後の結果	<p>①ターゲット医療機関は年度前半のプレストーリーング研修後に計画した研修計画で研修を実施。 目標を大幅に上回る5452名が研修修了</p> <p>②学術集会開催、想定を大幅に上回る915名参加</p> <p>③主なターゲット医療機関スタッフのSNSでの活動、学術集会関連の記事確認。</p>	<p>①ターゲット医療機関とその関連病院から12議題が発表され、保健省、主要医療機関でう盛んな議論交わされた。 医療従事者の患者安全の意識の現状把握し、推移を測定するツールとして世界的に使用されているHospital Survey on Patient Safety Culture 第二版のベトナム語バージョンを作成し、ターゲット病院医療従事者での試験運用開始</p> <p>②医療機関の質・安全管理部のみではなく、各臨床科も含めた全国の医療機関より合計915名医療機関が参加。日本の企業からも2名が講師。 今回の学術集会の主体であるHong Vuong 病院内に設立された組織によって学術集会は運営された</p> <p>③学術集会の参加者によりSNSでの内容拡散を確認。 一例として共催病院の学術集会の紹介Facebook2023年3月10日時点167いいね</p>	<p>①同学術集会に参加した保健省関係者のSNSで同学術集会関連記事への言及を確認。</p> <p>②保健省担当副局長、課長、複数の学術集会参加病院、研修に参加したターゲット医療機関等から、同学術集会のインパクトに関する発言の確認と継続的な開催の希望を確認。フロン病院内に設立された運営組織の協力の継続確認。</p>

研修参加者数の大幅拡大をはじめとして、事業前にあげられた指標は大幅に達成されていると考えられます。

また、事業の目的であるベトナムの医療機関での実際の医療サービスの提供における質・安全の向上が実際に実施されるためには、現場の医療者の医療安全に対する意識が向上することは、必要な前提です。その医療者の同テーマへの意識を客観的に数値化するツールである Hospital Survey on Patient Safety Culture 第二版のベトナム語バージョンを作成し、ターゲット病院医療従事者での運用開始しました。医療の質・安全という客観的な指標が作成にくいテーマにおいて、本 Survey のような項目を事業内に取り入れて行うことは、事業効果を評価し、より効果的なアプローチを考えるうえで大変重要であると考えられます。

今年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数

今年度中に新たに発出された医療サービスの質・安全に関する政策文書等は確認できず。これまでのところ近年、同事業の関連政策文書としては、インシデントレポート関連、医療機関の電子化に関連、患者安全関連のものが発出されている。

- 事業で紹介・導入し、対象国の調達につながった医療機器の数

医療の質・安全向上に関連する直接的な日本の医療機器の導入は確認できないが、医療の質・安全向上のための、ベトナム独自の開発のアプリケーション、電子カルテシステム、インシデント報告ツールなど導入されている現状確認。

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)

ベトナム全土の医療機関においてオンラインで5452名、現地のオンサイトで375名というこれまでない規模で、人材育成活動ができたことは一つのインパクトである。

また、この人数はすべてベトナムの現場、個人の能動的な参加、自身の費用負担での参加者数であることは特記すべき結果である。これまでこういったジャンルの研修テーマにおいて、ベトナム人の研修参加においては参加者への日当、交通費等のドナー側の負担が必要であることも少なくなかったことを考えれば、個々の研修受講における能動的な変化が起こっているといえ、大きな変化であり、人材育成全般に影響するインパクトであるといえる。

また、予算規模も拡大することなく、大幅に研修受講者を増加させることができたのは、オンラインツールの活用とベトナム側レソースの最大限活用などの事業運営における工夫であったと考えられ、限られた資源内でインパクトを最大化する必要性という国際協力、開発事業全般への参考となる進め方であったのではないかと考える。

7

今年度中に新たに発出された医療サービスの質・安全に関する政策文書等は確認できませんでした。しかしながら、これまでのところ近年、同事業の関連政策文書としては、インシデントレポート関連、医療機関の電子化関連、患者安全関連のものが発出されています。医療の質・安全向上に関連する直接的な日本の医療機器の導入は確認できないが、医療の質・安全向上のための、ベトナム独自の開発のアプリケーション、電子カルテシステム、インシデント報告ツールなど導入されている現状確認しています。

また、ベトナム全土の医療機関においてオンラインで5452名、現地のオンサイトで375名というこれまでない規模で、人材育成活動ができたことは一つの大きなインパクトであると考えられます。

また、この人数はすべてベトナムの現場、個人の能動的な参加、自身の費用負担での参加者数であることは特記すべき結果であります。これまでこういったジャンルの研修テーマにおいて、ベトナム人の研修参加においては参加者への日当、交通費等のドナー側の負担が必要であることも少なくなかったことを考えれば、個々の研修受講における能動的な変化が起こっているといえ、大きな変化であり、人材育成全般に影響するインパクトであるといえます。

また、予算規模も拡大することなく、大幅に研修受講者を増加させることができたのは、オンラインツールの活用とベトナム側レソースの最大限活用などの事業運営における工夫であったと考えられ、限られた資源内でインパクトを最大化する必要性という国際協力、開発事業全般への参考となる進め方であったのではないかと考えられます。

31 ベトナムにおける医療安全推進のための院内組織連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

これまでの成果

- これまでのところ近年、ベトナムの医療の質・安全の関連政策文書としては、患者安全関連、インシデントレポート関連、医療機関の電子化に関する政令、病院評価に関するもの等のものが発出されており、政策面の進捗は段階的にみられている。
- ベトナムの国公立の医療機関では医療サービスの質・安全の推進のため病院のIT化や、施設整備が段階的に行われはじめている。ただし、地域差、施設間の実施の差は大きい。

今後の課題

医療サービスの質・安全を政策文書や組織内の質管理部等の整備という体制、制度上の変化だけでなく、実際の診療現場において、実際に質・安全が担保された医療サービスが実際に提供されるためには、人員の教育に加えて、過度な医療機関の混雑、患者と医療者の比率の是正、さらなる施設・機材整備、適切な労働環境の整備、医療者の倫理観の向上等を全国的にすすめる必要がある。

また、医療安全の概念を広く普及させ、医療機関にその意識を根付かせるためには、ヘルスセクターのみで完結できるものではなく、患者の権利のさらなる向上、国公立医療機関を含む行政組織の透明性向上、司法の整備、客観的に医療事故を調査するシステムの整備など多岐にわたり、幅広いセクターと進める必要がある事項であり、現場レベルでの目に見える形の改善には時間を要するのは明らかです。しかしながら本テーマは非常にこれからのベトナム社会で重要であり、ヘルスセクター以外の同行も注視しながら、広い視野でアプローチを考えてすすめる必要がある。

8

これまでのところ近年、ベトナムの医療の質・安全の関連政策文書としては、患者安全関連、インシデントレポート関連、医療機関の電子化に関する政令、病院評価に関するもの等のものが発出されており、政策面の進捗は段階的にみられています。

しかしながら、ベトナムの国公立の医療機関では医療サービスの質・安全の推進のため病院のIT化や、施設整備が段階的に行われはじめている。ただし、地域差、施設間の実施の差は大きいです。

医療サービスの質・安全を政策文書や組織内の質管理部等の整備という体制、制度上の変化だけでなく、実際の診療現場において、実際に質・安全が担保された医療サービスが実際に提供されるためには、人員の教育に加えて、過度な医療機関の混雑、患者と医療者の比率の是正、さらなる施設・機材整備、適切な労働環境の整備、医療者の倫理観の向上等、非常に大きなテーマであることを理解し、段階的に進める必要があります。

また、医療安全の概念を広く普及させ、医療機関にその意識を根付かせるためには、ヘルスセクターのみで完結できるものではなく、患者の権利のさらなる向上、国公立医療機関を含む行政組織の透明性向上、司法の整備、客観的に医療事故を調査するシステムの整備など多岐にわたり、幅広いセクターと進める必要がある事項であり、現場レベルでの目に見える形の改善には時間を要するのは明らかです。しかしながら、本テーマは非常にこれからのベトナム社会であり、ヘルスセクター以外の同行も注視しながら、広い視野でアプローチを考えてすすめる必要があると考えられます。

将来の事業計画

・展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれれば記載して下さい。

「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

事業のインパクト(医療技術移転の定着、持続的な医療機器・医薬品調達)につながるように事業の展望を具体的に描いてください(自由形式)。

- 医療サービスの質・安全を政策文書や組織内の質管理部等の整備という体制、制度上の変化だけでなく、実際の診療現場において、実際に質・安全が担保された医療サービスが実際に提供されるためには、人員の教育に加えて、過度な医療機関の混雑、患者と医療者の比率の是正、さらなる施設・機材整備、適切な労働環境の整備、医療者の倫理観の向上等を全国的にすすめる必要がある。
- また、医療安全の概念を広く普及させ、医療機関にその意識を根付かせるためには、ヘルスセクターのみで完結できるものではなく、患者の権利のさらなる向上、国公立医療機関を含む行政組織の透明性向上、司法制度の整備、客観的に医療事故を調査するシステムの整備など多岐にわたり、幅広いセクターと進める必要がある事項であり、時間を要するのは明らかである。しかしながら非常にこれからのベトナム社会で重要なテーマであり、ある程度時間がかかるテーマであることを前提に、ヘルスセクター以外の動向も注視しながら、広い視野でアプローチを考えてすすめる必要がある。
- しかしながら、本事業で目標とする医療サービスの現場で質・安全の向上が実施されている状態は、実際の診療現場で我が国と共通の価値観での診療提供とそれを実現させるための製品ニーズが確立されたといえる状態であり、そこへコストをかけるという価値観を生み、安全面等も重視して製作されている我が国の製品が、全般的により受け入れやすく選ばれることにつながり、ベトナムの診療現場での質・安全の向上に結果的に寄与する大きなインパクトを生む可能性がある。
- ベトナムのように、患者過多や医療人材の不足が顕著な診療環境で実際に質・安全が担保されたサービス提供のためにはIT化など技術革新により効率化、タスクシフトの実施は必須の項目であると考えられ、ベトナムの政策的にも積極的な導入がはじまっている。しかしながら、実際、そこで我が国の製品の導入が拡大しているとは言えず、多くのIT関連技術はベトナム独自で開発されている。IT技術などベトナムの強みである項目に関しては、日本製品の展開だけではなく、ベトナム側と共同開発など戦略的な連携で、ベトナム国内や他の低所得国に活用されるような製品の開発も視野にいれてよいであろう。

9

医療の質・安全というテーマに取り組むにあたり、以下の事項は留意する必要があります。

サービスの質・安全を政策文書や組織内の質管理部等の整備という体制、制度上の変化だけでなく、実際の診療現場において、実際に質・安全が担保された医療サービスが実際に提供される変化を生むことは以下のように医療サービス、調達における波及効果は大きいと考えられます。

本事業で目標とする医療サービスの現場で質・安全の向上が実施されている状態は、実際の診療現場で我が国と共通の価値観での診療提供とそれを実現させるための製品ニーズが確立されたといえる状態であり、そこへコストをかけるという価値観を生み、安全面等も重視して製作されている我が国の製品が、全般的により受け入れやすく選ばれることにつながり、ベトナムの診療現場での質・安全の向上に結果的に寄与する大きなインパクトを生む可能性があります。現在、ベトナムの医療現場では質や安全性よりも、価格競争の面が重要視されており、我が国の医療機器など、前者を重要視するサービス・製品は展開が難しい環境であり、本事業が扱う項目で医療現場の意識を変化させることは波及効果が大きいと考えられます。

ベトナムのように、患者過多や医療人材の不足が顕著な診療環境で実際に質・安全が担保されたサービス提供のためにはIT化など技術革新により効率化、タスクシフトの実施は必須の項目であると考えられ、ベトナムの政策的にも積極的な導入がはじまっています。しかしながら、実際、そこで我が国の製品の導入が拡大しているとは言えず、多くのIT関連技術はベトナム独自で開発されています。IT技術などベトナムの強みである項目に関しては、日本製品の進出だけではなく、ベトナム側と共同開発など戦略的な連携で、ベトナム国内や他の低所得国に活用されるような製品の開発も視野にいれてよいではないでしょうか。